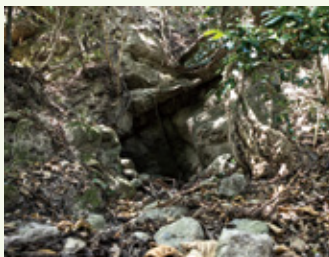




周辺も整備された生誕地の碑



牛穴



## きんのう 勤皇運動に命を捧げた 兄弟誕生の地

月照は、文化10(1813)年に吉原村下所に生まれ、10歳で碑殿町にある牛額寺の蔵海に弟子入りし、20歳で京都清水寺成就院の住職となりました。当時財政難だった清水寺を救った後に弟の信海に寺をゆずって、尊王愛国の思想のもと、明治維新の先導者西郷隆盛などと親交を得て奔走しました。しかし、幕府側に追われて九州へ逃げ、隆盛とともに海に身を投げました。隆盛は助かりましたが月照は帰らぬ人となりました。弟の信海も高野山で修業を積み成就院住職となりましたが、月照などとともに活躍したことから幕府にとらえられ、39歳で獄死しました。明治24

「大君の為には何が惜しからむ  
薩摩の追門に身は沈むとも」 月照「西の海東の空と変れども  
心は同じ君が代の為」 信海

(1891)年、ともに維新の功労者として、月照は正四位、信海は従四位が贈られました。

二人が生まれた現在の吉原町には生誕地の石碑があり、平成26(2014)年に県道拡張工事のために移築され、現在は修業をした牛額寺の方を向いて建っています。

牛額寺はもともと山手にあり、その場所には薬師堂が残されています。ここには、霊牛が出入りしたという伝説の牛穴があり、隣の広場には、月照と信海の像が建てられています。もとは銅像でしたが、第2次世界大戦の際に供出したため台座だけになり、昭和53(1978)年に速水史朗氏作の石像に生まれ変わりました。また像の近くには東郷平八郎が月照・信海の功績を称えた石碑も残っています。